

年頭所感 令和六年仕事始めの挨拶 (2024/1/4)

(株) アイヴィス 代表取締役社長 石和田 雄二

今年は元旦早々能登半島で M7.6 の直下型大地震が発生、甚大な被害を出したのとその翌日、現地に救援物資を運ぶ海保航空機機長が先を急いだ為の判断ミスか滑走路に侵入、JAL 着陸便大型機と衝突、海保機乗員 5 人死亡と JAL 機炎上、大規模な欠航を招く大惨事となった。

震災とその救援活動による人災、何とも痛ましく新年を祝う気になれなかった。

新年のお祝いには、迎春、賀春、あけましておめでとう、などいろいろあるが、基本は新年を迎え、戻らぬ過去の出来事は忘れ、現実を踏まえた上で心機一転、未来への芽を育てる晴れやかな気持ちの表現、将来に向けた決意表明でもある。元旦に 1 年の計を立てることはこの意味でも必要、私は 50 歳の時に禁煙を決意、今年は 80 歳なので健康維持を願い、東京駅からの徒歩通勤と節食の復活を誓う。事業承継には 3 年の移行期間が必要なのと体力の衰えも感じ始めているからだ。仕事始めの今日、予定通りに東京駅から歩いて来たが、久しぶりに将門塚に参拝、途中、木蓮の芽吹いた冬芽に春の訪れを感じるなど、年初の爽やかな出勤だった。

今年の正月は、東京箱根間大学駅伝の第 100 回という記念すべき大会を見る為、TJK の箱根保養所に行き、近くの小涌谷の道路沿いで上りと下りを応援して来た。優勝候補の駒大を抑え、青学が誰も予想しなかった大会新記録で総合優勝した。青学は 2 年ぶり 2015 年以来 7 回目の優勝だが、若手多く初出場が 10 人中 7 名、大学駅伝で勝続けて来た駒大やエースのいる中大の陰で話題にも上らなかった。それが選手のやる気に火をつけ、優秀な選手が集まる中で若手の実力が芽生えていたからだが、チームの連帯感と潜在的な底力を引き出した。伝統の箱根駅伝で優勝候補を寄せ付けなかった青学の活躍は、新年に相応しく快哉を叫びたい。

今年の当社にも成長の可能性という意味では新たな芽が確実に育ち始めている。第一の芽は、2 年間の困難から脱する可能性が見えて来た今期末着地への芽だ。第二は、当社取引先である大手 3 社との緊密な連帯関係への新たな芽だ。第三は、先進技術力と平均 33 歳の若き技術者達の成長力という芽だ。第四は、IT 大変革期という時代の波に乗れた当社の総合力と成長への芽だ。そして最後は、日本経済の復活という当社を取り巻く環境条件、需要面での芽だ。上記の 5 つの新芽が今、同時に育っており、当社の成長に大きなプラスとなる。以下、各項目に関する新たな可能性を具体的に説明する。

第一番目は、12月の予想利益水準が4千万円の大台に乗ったことである。

12月の「Job Scheduling & Member Assignment」では、悲観的だったが、年末ぎりぎりの経営管理部門の報告では、12月の利益見通しは4千万円超、3Qの修正計画1億1千万に対して3百万円のプラス、上期赤字1億円を償却して年度初めてのプラス、4Qの頑張りでは利益1億8千万円の芽が出て来た。

第二番目は、NTTデータ、トヨタシステムズ、BIPROGYの顧客3社との資本参加の効果だ。目先の仕事を超え相互に役割を担う大切なパートナーになったということだ。3社はITの研究開発と応用技術面、ITの伝統と市場開拓で先頭を行く企業、当社が学び、成長するだけでなく、当社の専門技術を生かせる場をもっており、技術企業の将来創りでかけがえのない存在、未来を拓く新たな芽となる筈だ。

第三番目は、当社の成長路線と時代環境との整合性、若き技術集団の成長力だ。10年前から実施している当社の経営方針でもある応用技術と基盤技術の刷新、先端技術の導入、専門性のある若手技術者の採用、大学官庁研究機関との協業、大手3社との連携と技術導入・人材育成などが、今起こりつつある時代変化AIとクラウド、顧客軸のIT化の流れに乗り、当社成長の芽が育ち始めている。

第四番目は、AIとクラウドが牽引するIT技術革新と当社先進技術の優位性だ。35年前の創業時に作った社名：Intelligent Vision & Image Systemsにある如くAIは創業当時からの対象分野だが、それが時代のテーマに躍り出て来た。伝統と最新AI研究や開発実績、先進製品の応用を経て当社先進部門は業界の1歩先を走っており、AI時代が始まる今、当社の成長を先導する役割を担う。

最後は、物価高と賃上げが同期循環する日本経済の新たな成長期の始まりだ。能登半島大地震により多少の後退はあるとしても日本経済は回復基調にある。人流が戻りインバウンドも堅調、物価高騰の影響も消費関連はプラスに働きコロナ前を超える勢い、円安効果で製造業の利益が膨らみ上場企業の8割が増益、春闘の賃上げ条件が揃っており、4%の賃上げで日本経済は好循環に入る。

この4月には、当社に技術者志望の100名強の優秀な若者たちが入社してくる。今年の7月以降は、社内技術者800人、協力企業を加えて900名超体制となる。上述の新たな芽が本格的に成長、今期は売上70億円利益4億円超の大台に乗る。業績に加え基盤整備3年計画が始動する中で若手指導層を抜本的に増やすべく体制を改造、管理者教育の導入とバックアップ体制を整え、安定成長へ道を拓く。3年後の27年3月期には技術者1000人、売上も100億円に近い所を目指す。本来の狙いは基盤整備のその先での成長、外部人材の導入や他社連携も必要だ。今年は1~3月で早めに将来構想を描き、当面の新組織体制を固めて公表する。目標高くリスク併存、着実に成果を上げられる様に指揮系列を整えて進めたい。以上が当社の1年の計だ。未来を共有する社員の一層の協力をお願いする。(了)